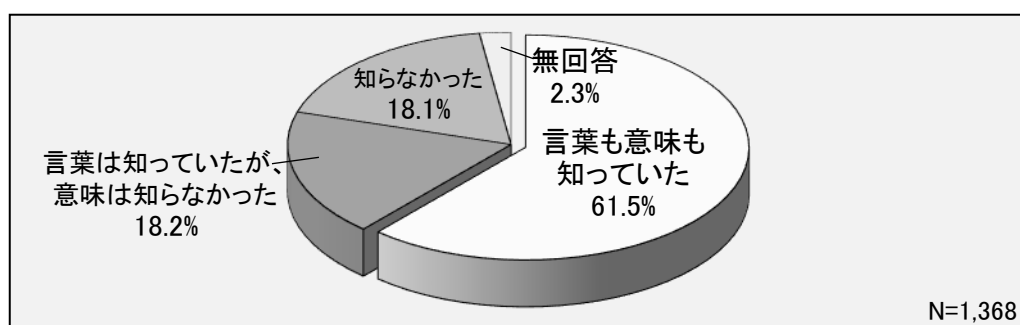


5 セクシュアルマイノリティ（LGBT等）について

問13 セクシュアルマイノリティ（LGBT等）という言葉を知っていましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

セクシュアルマイノリティ（LGBT等）という言葉について、「言葉も意味も知っていた」が61.5%と最も高く、次いで、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」が18.2%となっています。

年代別にみると、「知らなかった」は、20歳代以下が9.7%と最も低く、年代が上がるにつれて、徐々に上昇し、70歳代は30.5%と3割を超えています。性・年代別にみると、女性は、「言葉も意味も知っていた」は20歳代以下が80.9%と8割を超えていますが、40歳代を除き、年代が上がるにつれて、徐々に低下しており、70歳代は32.5%と、「知らなかった」（35.1%）よりも低くなりました。男性は、全ての年代で「言葉も意味も知っていた」が最も高くなっており、50歳代以下は6割を超えています。



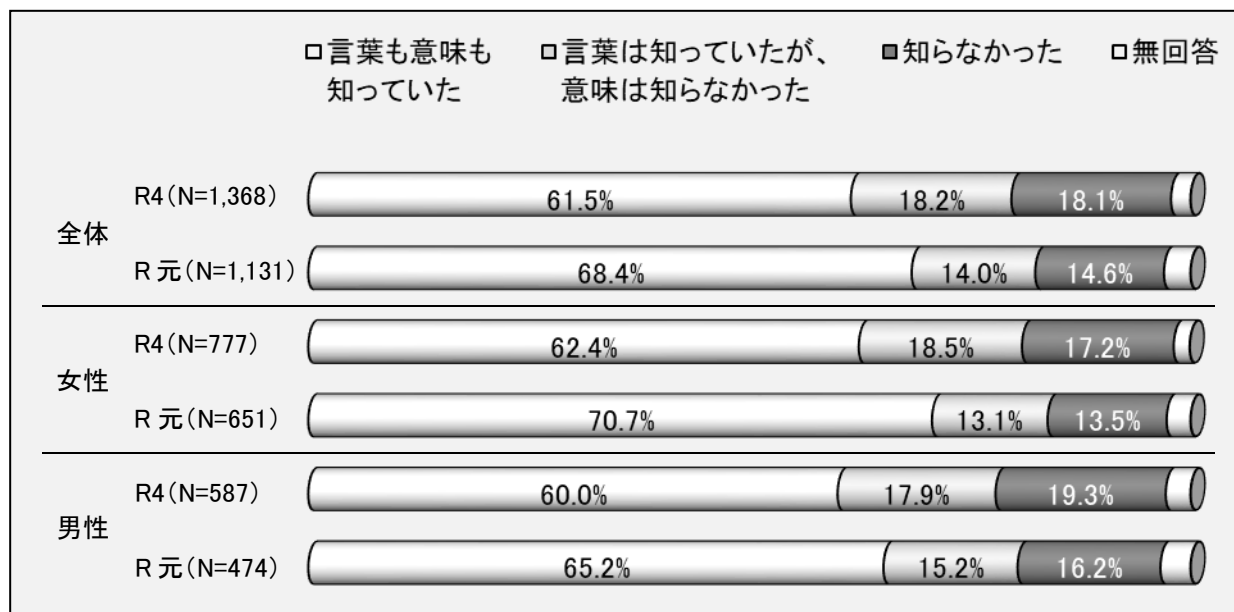
N			言葉も意味も知っていた	言葉は知っていたが、意味は知らなかった	知らなかった	無回答	
全 体			1,368	61.5%	18.2%	18.1%	2.3%
年代別	20 歳代以下		144	75.0%	13.2%	9.7%	2.1%
	30 歳代		148	68.9%	18.9%	10.8%	1.4%
	40 歳代		226	71.2%	15.9%	11.9%	0.9%
	50 歳代		295	66.8%	14.6%	17.3%	1.4%
	60 歳代		257	59.1%	20.6%	18.7%	1.6%
	70 歳代		298	40.6%	23.5%	30.5%	5.4%
性別	女性	全体	777	62.4%	18.5%	17.2%	1.8%
		20 歳代以下	89	80.9%	13.5%	4.5%	1.1%
		30 歳代	92	71.7%	15.2%	13.0%	—
		40 歳代	142	71.8%	16.9%	10.6%	0.7%
		50 歳代	165	70.3%	14.5%	13.9%	1.2%
		60 歳代	135	58.5%	21.5%	19.3%	0.7%
		70 歳代	154	32.5%	26.6%	35.1%	5.8%

			N	言葉も意味も知っていた	言葉は知っていたが、意味は知らなかった	知らなかった	無回答
性別	男性	全体	587	60.0%	17.9%	19.3%	2.9%
		20 歳代以下	53	64.2%	13.2%	18.9%	3.8%
		30 歳代	56	64.3%	25.0%	7.1%	3.6%
		40 歳代	82	69.5%	14.6%	14.6%	1.2%
		50 歳代	130	62.3%	14.6%	21.5%	1.5%
		60 歳代	122	59.8%	19.7%	18.0%	2.5%
		70 歳代	144	49.3%	20.1%	25.7%	4.9%

経年比較

セクシュアルマイノリティ（LGBT等）という言葉の認知について、前回調査と比較すると「言葉も意味も知っていた」が68.4%から61.5%と6ポイント下がり、「知らなかった」は、14.6%から18.1%と3ポイント上がっています。

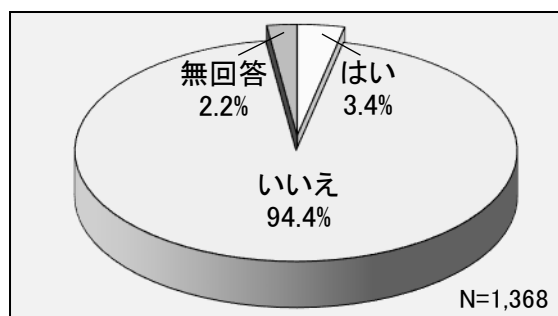
性別にみると、女性は、「言葉も意味も知っていた」が70.7%から62.4%と8ポイント下がり、「知らなかった」は、13.5%から17.2%と3ポイント上がっています。男性は、「言葉も意味も知っていた」が65.2%から60.0%と5ポイント下がり、「知らなかった」は、16.2%から19.3%と3ポイント上がっています。



問 1 4 今までに自分の身体の性、心の性または性的指向（同性愛等）に悩んだことはありますか。

今までに自分の身体の性、心の性または性的指向（同性愛等）に悩んだことがあるかについて、「はい」は3.4%、「いいえ」は94.4%となっています。

年代別にみると、「はい」は30歳代が10.8%と1割を超えて最も高くなっています。性・年代別にみると、女性、男性ともに30歳代は1割を超えて最も高くなっています。

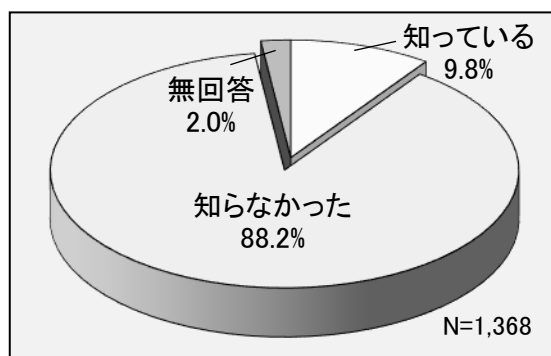


			N	はい	いいえ	無回答
全 体			1,368	3.4%	94.4%	2.2%
年 代 別	20 歳代以下		144	8.3%	89.6%	2.1%
	30 歳代		148	10.8%	87.8%	1.4%
	40 歳代		226	3.5%	96.0%	0.4%
	50 歳代		295	2.0%	96.9%	1.0%
	60 歳代		257	0.8%	97.7%	1.6%
	70 歳代		298	1.0%	93.3%	5.7%
性 別	女 性	全 体	777	3.0%	95.5%	1.5%
		20 歳代以下	89	5.6%	93.3%	1.1%
		30 歳代	92	10.9%	89.1%	—
		40 歳代	142	2.8%	97.2%	—
		50 歳代	165	1.2%	98.2%	0.6%
		60 歳代	135	0.7%	98.5%	0.7%
		70 歳代	154	0.6%	93.5%	5.8%
	男 性	全 体	587	3.7%	93.2%	3.1%
		20 歳代以下	53	9.4%	86.8%	3.8%
		30 歳代	56	10.7%	85.7%	3.6%
		40 歳代	82	4.9%	93.9%	1.2%
		50 歳代	130	3.1%	95.4%	1.5%
		60 歳代	122	0.8%	96.7%	2.5%
		70 歳代	144	1.4%	93.1%	5.6%

問 1 5 平塚市では、今年 4 月 1 日から「平塚市パートナーシップ宣誓制度」を開始しましたが、知っていましたか。

「平塚市パートナーシップ宣誓制度」について、「知っている」は 9.8%、「知らなかった」は 88.2% となっています。

年代別にみると、「知っている」は、30 歳代が 14.2% と最も高く、30 歳代から 50 歳代は 1 割を超えています。

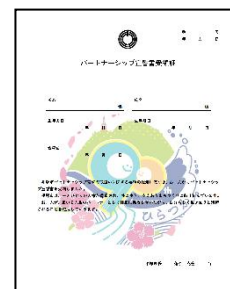


			N	知っている	知らなかった	無回答
全 体			1,368	9.8%	88.2%	2.0%
年 代 別	20 歳代以下		144	6.3%	91.7%	2.1%
	30 歳代		148	14.2%	84.5%	1.4%
	40 歳代		226	11.1%	88.5%	0.4%
	50 歳代		295	11.5%	87.5%	1.0%
	60 歳代		257	8.6%	89.9%	1.6%
	70 歳代		298	7.7%	87.2%	5.0%
性 別	女 性	全体	777	9.8%	88.9%	1.3%
		20 歳代以下	89	7.9%	91.0%	1.1%
		30 歳代	92	18.5%	81.5%	—
		40 歳代	142	7.0%	93.0%	—
		50 歳代	165	12.7%	86.7%	0.6%
		60 歳代	135	8.1%	91.1%	0.7%
		70 歳代	154	6.5%	89.0%	4.5%
	男 性	全体	587	9.7%	87.2%	3.1%
		20 歳代以下	53	1.9%	94.3%	3.8%
		30 歳代	56	7.1%	89.3%	3.6%
		40 歳代	82	18.3%	80.5%	1.2%
		50 歳代	130	10.0%	88.5%	1.5%
		60 歳代	122	9.0%	88.5%	2.5%
		70 歳代	144	9.0%	85.4%	5.6%

●自分の身体の性、心の性などに悩んだ経験がある人の制度の認知【年代別／性別】

問 14「自分の身体の性、心の性または性的指向（同性愛等）に悩んだ経験がある人」の制度の認知状況をみると、「知っている」は12.8%となっており、全体（N=1,368）の9.8%よりも3ポイント上回っています。

			N	知っている	知らなかった	無回答
全 体			47	12.8%	87.2%	—
年 代 別	20 歳代以下		12	8.3%	91.7%	—
	30 歳代		16	18.8%	81.3%	—
	40 歳代		8	12.5%	87.5%	—
	50 歳代		6	—	100.0%	—
	60 歳代		2	50.0%	50.0%	—
	70 歳代		3	—	100.0%	—
性 別	女 性	全 体	23	8.7%	91.3%	—
		20 歳代以下	5	—	100.0%	—
		30 歳代	10	20.0%	80.0%	—
		40 歳代	4	—	100.0%	—
		50 歳代	2	—	100.0%	—
		60 歳代	1	—	100.0%	—
		70 歳代	1	—	100.0%	—
	男 性	全 体	22	13.6%	86.4%	—
		20 歳代以下	5	—	100.0%	—
		30 歳代	6	16.7%	83.3%	—
		40 歳代	4	25.0%	75.0%	—
		50 歳代	4	—	100.0%	—
		60 歳代	1	100.0%	—	—
		70 歳代	2	—	100.0%	—



パートナーシップ宣言書受領証

6 新型コロナウイルス感染症の拡大における影響について

問 1 6 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、どのような影響がありましたか。項目ごとにあてはまるものを1つずつ選んでください。該当しない場合は、「4 該当なし」を選んでください。

① 身体的な健康

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う「身体的な健康」について、「変化なし」が73.3%と最も高く、次いで、「悪くなった」が18.7%となっています。

年代別にみると、全ての年代で「変化なし」が7割を超えて、最も高くなっています。また、全ての年代で「悪くなった」が「良くなった」を上回っており、特に60歳代は、「悪くなった」(21.4%)が「良くなった」(2.3%)を19ポイント上回っています。性・年代別にみると、女性の60歳代は、「悪くなった」が26.7%と最も高く、「良くなった」と回答した人はいませんでした。

			N	良くなった	悪くなった	変化なし	無回答
全 体			1,368	3.7%	18.7%	73.3%	4.2%
年 代 別	20 歳代以下		144	4.9%	17.4%	75.7%	2.1%
	30 歳代		148	8.8%	16.9%	73.0%	1.4%
	40 歳代		226	4.9%	19.0%	74.8%	1.3%
	50 歳代		295	3.1%	19.7%	74.2%	3.1%
	60 歳代		257	2.3%	21.4%	73.2%	3.1%
	70 歳代		298	1.7%	16.8%	70.5%	11.1%
性 別	女 性	全 体	777	3.7%	19.3%	72.6%	4.4%
		20 歳代以下	89	4.5%	15.7%	78.7%	1.1%
		30 歳代	92	6.5%	16.3%	77.2%	—
		40 歳代	142	5.6%	16.9%	76.1%	1.4%
		50 歳代	165	4.2%	20.6%	71.5%	3.6%
		60 歳代	135	—	26.7%	70.4%	3.0%
		70 歳代	154	2.6%	17.5%	66.2%	13.6%
	男 性	全 体	587	3.6%	17.9%	74.4%	4.1%
		20 歳代以下	53	3.8%	18.9%	73.6%	3.8%
		30 歳代	56	12.5%	17.9%	66.1%	3.6%
		40 歳代	82	3.7%	23.2%	72.0%	1.2%
		50 歳代	130	1.5%	18.5%	77.7%	2.3%
		60 歳代	122	4.9%	15.6%	76.2%	3.3%
		70 歳代	144	0.7%	16.0%	75.0%	8.3%

② 精神的に不安定になってイライラすること

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う「精神的に不安定になってイライラすること」について、「変化なし」が57.4%と最も高く、次いで、「増えた」が37.4%となっています。

年代別にみると、全ての年代で「増えた」が「減った」を上回っており、特に20歳代以下は、「増えた」(45.1%)が「減った」(1.4%)を43ポイント上回っています。性・年代別にみると、女性の30歳代以下を除き「変化なし」が最も高くなっていますが、女性の30歳代以下は、「増えた」が「変化なし」を上回っています。また、「増えた」は、全ての年代において、女性が男性を上回っており、特に30歳代は、女性(52.2%)が男性(35.7%)を16ポイント上回っています。

			N	増えた	減った	変化なし	無回答
全 体			1,368	37.4%	1.3%	57.4%	3.9%
年代別	20歳代以下		144	45.1%	1.4%	51.4%	2.1%
	30歳代		148	45.9%	3.4%	49.3%	1.4%
	40歳代		226	42.9%	3.1%	53.1%	0.9%
	50歳代		295	34.2%	0.7%	63.1%	2.0%
	60歳代		257	38.5%	0.4%	58.0%	3.1%
	70歳代		298	27.5%	0.3%	61.4%	10.7%
性別	女性	全 体	777	41.7%	1.7%	52.6%	4.0%
		20歳代以下	89	49.4%	1.1%	47.2%	2.2%
		30歳代	92	52.2%	3.3%	44.6%	—
		40歳代	142	47.2%	4.2%	47.9%	0.7%
		50歳代	165	37.0%	1.2%	59.4%	2.4%
		60歳代	135	43.0%	—	54.1%	3.0%
		70歳代	154	29.9%	0.6%	56.5%	13.0%
	男性	全 体	587	31.5%	0.9%	63.9%	3.7%
		20歳代以下	53	35.8%	1.9%	60.4%	1.9%
		30歳代	56	35.7%	3.6%	57.1%	3.6%
		40歳代	82	35.4%	1.2%	62.2%	1.2%
		50歳代	130	30.8%	—	67.7%	1.5%
		60歳代	122	33.6%	0.8%	62.3%	3.3%
		70歳代	144	25.0%	—	66.7%	8.3%



③ 生活に対する不安

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う「生活に対する不安」について、「増えた」が51.2%と最も高く、次いで、「変化なし」が43.9%となっています。

年代別にみると、60歳代以下は全ての年代で「増えた」が最も高く5割以上となっていますが、70歳代は「変化なし」が50.0%で最も高くなっています。性・年代別にみると、女性・男性ともに、70歳代を除く全ての年代で「増えた」が最も高くなっていますが、70歳代は、女性・男性ともに「変化なし」が最も高くなっています。

			N	増えた	減った	変化なし	無回答
全 体			1,368	51.2%	1.2%	43.9%	3.6%
年代別	20歳代以下		144	54.2%	0.7%	43.1%	2.1%
	30歳代		148	63.5%	3.4%	31.8%	1.4%
	40歳代		226	50.0%	1.3%	47.3%	1.3%
	50歳代		295	53.9%	1.4%	42.4%	2.4%
	60歳代		257	54.1%	0.8%	43.2%	1.9%
	70歳代		298	39.6%	0.7%	50.0%	9.7%
性別	女性	全 体	777	52.5%	1.4%	42.5%	3.6%
		20歳代以下	89	56.2%	—	41.6%	2.2%
		30歳代	92	66.3%	4.3%	29.3%	—
		40歳代	142	51.4%	0.7%	46.5%	1.4%
		50歳代	165	53.3%	2.4%	41.2%	3.0%
		60歳代	135	53.3%	0.7%	44.4%	1.5%
		70歳代	154	41.6%	0.6%	46.8%	11.0%
	男性	全 体	587	49.6%	1.0%	45.8%	3.6%
		20歳代以下	53	49.1%	1.9%	47.2%	1.9%
		30歳代	56	58.9%	1.8%	35.7%	3.6%
		40歳代	82	48.8%	2.4%	47.6%	1.2%
		50歳代	130	54.6%	—	43.8%	1.5%
		60歳代	122	54.9%	0.8%	41.8%	2.5%
		70歳代	144	37.5%	0.7%	53.5%	8.3%



④ 家計収入

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う「家計収入」について、「変化なし」が65.3%と最も高く、次いで、「減った」が26.6%となっています。

年代別にみると、全ての年代で「減った」が「増えた」を上回っており、特に50歳代は、「減った」(31.5%)が「増えた」(2.7%)を28ポイント上回っています。性・年代別にみると、40歳の男性は、「増えた」が14.6%と最も高く、他の性・年代と比べて5ポイント以上高くなっています。

			N	増えた	減った	変化なし	無回答
全 体			1,368	4.4%	26.6%	65.3%	3.7%
年代別	20歳代以下		144	2.8%	26.4%	69.4%	1.4%
	30歳代		148	6.1%	28.4%	64.2%	1.4%
	40歳代		226	9.7%	32.7%	56.6%	0.9%
	50歳代		295	2.7%	31.5%	63.7%	2.0%
	60歳代		257	3.9%	25.3%	68.5%	2.3%
	70歳代		298	2.3%	17.4%	69.1%	11.1%
性別	女性	全 体	777	4.2%	25.1%	67.1%	3.6%
		20歳代以下	89	4.5%	24.7%	69.7%	1.1%
		30歳代	92	4.3%	33.7%	62.0%	—
		40歳代	142	7.0%	32.4%	59.9%	0.7%
		50歳代	165	3.6%	26.7%	67.3%	2.4%
		60歳代	135	4.4%	21.5%	71.9%	2.2%
		70歳代	154	1.9%	14.9%	70.8%	12.3%
	男性	全 体	587	4.6%	28.4%	63.0%	3.9%
		20歳代以下	53	—	26.4%	71.7%	1.9%
		30歳代	56	8.9%	19.6%	67.9%	3.6%
		40歳代	82	14.6%	34.1%	50.0%	1.2%
		50歳代	130	1.5%	37.7%	59.2%	1.5%
		60歳代	122	3.3%	29.5%	64.8%	2.5%
		70歳代	144	2.8%	20.1%	67.4%	9.7%



【就業者のみ】

⑤ 就業時間

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う「就業時間」について、「変化なし」が65.3%と最も高く、次いで「減った」が18.7%となっています。

雇用形態別にみると、全ての雇用形態において、「変化なし」が最も高く、自営業者を除いて7割前後となっています。また、全ての雇用形態で「減った」が「増えた」を上回っており、特に自営業者は、「減った」(36.5%)が「増えた」(5.4%)を31ポイント上回っています。

性・雇用形態別にみると、男性の自営業者を除く全ての雇用形態及び性別で「変化なし」が最も高くなっていますが、男性の自営業者は「減った」が43.8%と最も高くなっています。

			N	増えた	減った	変化なし	該当なし	無回答
全 体			875	9.6%	18.7%	65.3%	3.0%	3.4%
雇用 形態 別	正社員・正職員		435	12.6%	16.6%	67.1%	2.8%	0.9%
	契約・派遣社員		61	13.1%	18.0%	65.6%	—	3.3%
	パート・アルバイト		253	5.9%	18.6%	71.5%	2.8%	1.2%
	自営業者		74	5.4%	36.5%	45.9%	6.8%	5.4%
	会社等の役員		30	6.7%	16.7%	70.0%	3.3%	3.3%
	会社等の役員		30	6.7%	16.7%	70.0%	3.3%	3.3%
性 別	女 性	全 体	461	10.8%	16.9%	66.8%	2.8%	2.6%
		正社員・正職員	172	15.1%	14.5%	67.4%	2.3%	0.6%
		契約・派遣社員	30	20.0%	23.3%	56.7%	—	—
		パート・アルバイト	212	7.1%	17.9%	71.7%	2.8%	0.5%
		自営業者	26	7.7%	23.1%	61.5%	3.8%	3.8%
		会社等の役員	8	12.5%	—	75.0%	12.5%	—
	男 性	全 体	413	8.2%	20.8%	63.4%	3.1%	4.4%
		正社員・正職員	262	11.1%	17.9%	66.8%	3.1%	1.1%
		契約・派遣社員	31	6.5%	12.9%	74.2%	—	6.5%
		パート・アルバイト	41	—	22.0%	70.7%	2.4%	4.9%
		自営業者	48	4.2%	43.8%	37.5%	8.3%	6.3%
		会社等の役員	22	4.5%	22.7%	68.2%	—	4.5%



【就業者のみ】

⑥ 在宅勤務やテレワーク

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う「在宅勤務やテレワーク」について、「変化なし」が34.4%と最も高く、次いで「増えた」が16.7%となっています。

雇用形態別にみると、全ての雇用形態で、「変化なし」が最も高く、特に会社等の役員は63.3%と、他の雇用形態と比べて25ポイント以上高くなっています。また、全ての雇用形態で「増えた」が「減った」を上回っており、特に正社員・正職員は、「増えた」(24.1%)が「減った」(0.9%)を23ポイント上回っています。

			N	増えた	減った	変化なし	該当なし	無回答
全 体			875	16.7%	0.9%	34.4%	44.6%	3.4%
雇用 形態 別	正社員・正職員		435	24.1%	0.9%	37.0%	36.8%	1.1%
	契約・派遣社員		61	14.8%	—	37.7%	44.3%	3.3%
	パート・アルバイト		253	5.1%	0.8%	32.8%	60.5%	0.8%
	自営業者		74	18.9%	2.7%	20.3%	52.7%	5.4%
	会社等の役員		30	13.3%	—	63.3%	20.0%	3.3%
性 別	女 性	全体	461	13.2%	0.9%	34.7%	48.4%	2.8%
		正社員・正職員	172	22.7%	1.2%	36.0%	39.5%	0.6%
		契約・派遣社員	30	13.3%	—	36.7%	50.0%	—
		パート・アルバイト	212	5.2%	0.5%	35.8%	58.0%	0.5%
		自営業者	26	26.9%	3.8%	23.1%	38.5%	7.7%
		会社等の役員	8	—	—	62.5%	37.5%	—
	男 性	全体	413	20.6%	1.0%	33.9%	40.4%	4.1%
		正社員・正職員	262	25.2%	0.8%	37.4%	35.1%	1.5%
		契約・派遣社員	31	16.1%	—	38.7%	38.7%	6.5%
		パート・アルバイト	41	4.9%	2.4%	17.1%	73.2%	2.4%
		自営業者	48	14.6%	2.1%	18.8%	60.4%	4.2%
		会社等の役員	22	18.2%	—	63.6%	13.6%	4.5%



【就業者のみ】

⑦ 残業

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う「残業」について、「変化なし」が 53.6%と最も高く、次いで「減った」が 14.4%となっています。

雇用形態別にみると、自営業者を除く全ての雇用形態で「変化なし」が最も高く、正社員・正職員、パート・アルバイト及び会社等の役員は6割前後となっています。また、パート・アルバイトを除く全ての雇用形態で「減った」が「増えた」を上回っており、特に契約・派遣社員は、「減った」(26.2%)が「増えた」(13.1%)を13ポイント上回っています。

			N	増えた	減った	変化なし	該当なし	無回答
全 体			875	11.4%	14.4%	53.6%	17.1%	3.4%
雇用 形態 別	正社員・正職員		435	14.9%	17.5%	59.3%	7.1%	1.1%
	契約・派遣社員		61	13.1%	26.2%	47.5%	9.8%	3.3%
	パート・アルバイト		253	7.9%	7.1%	55.7%	28.1%	1.2%
	自営業者		74	5.4%	17.6%	28.4%	44.6%	4.1%
	会社等の役員		30	6.7%	10.0%	60.0%	20.0%	3.3%
性 別	女 性	全体	461	12.6%	11.7%	53.6%	19.1%	3.0%
		正社員・正職員	172	18.6%	15.1%	57.0%	8.7%	0.6%
		契約・派遣社員	30	13.3%	33.3%	43.3%	10.0%	—
		パート・アルバイト	212	9.0%	7.5%	57.1%	25.5%	0.9%
		自営業者	26	11.5%	7.7%	38.5%	34.6%	7.7%
		会社等の役員	8	—	—	50.0%	50.0%	—
	男 性	全体	413	10.2%	17.4%	53.5%	15.0%	3.9%
		正社員・正職員	262	12.6%	19.1%	60.7%	6.1%	1.5%
		契約・派遣社員	31	12.9%	19.4%	51.6%	9.7%	6.5%
		パート・アルバイト	41	2.4%	4.9%	48.8%	41.5%	2.4%
		自営業者	48	2.1%	22.9%	22.9%	50.0%	2.1%
		会社等の役員	22	9.1%	13.6%	63.6%	9.1%	4.5%



⑧ 自分の収入

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う「自分の収入」について、「変化なし」が48.3%と最も高く、次いで、「減った」が21.3%となっています。

年代別にみると、全ての年代で「減った」が「増えた」を上回っており、特に30歳代は、「減った」(27.0%)が「増えた」(4.1%)を22ポイント上回っています。性・年代別にみると、全ての性・年代で「減った」が「増えた」を上回っており、特に男性の50歳代は、「減った」(35.4%)が「増えた」(3.1%)を32ポイント上回っています。

			N	増えた	減った	変化なし	該当なし	無回答
全 体			1,368	4.8%	21.3%	48.3%	22.2%	3.3%
年 代 別	20歳代以下		144	6.3%	17.4%	47.2%	27.1%	2.1%
	30歳代		148	4.1%	27.0%	50.0%	16.2%	2.7%
	40歳代		226	13.7%	24.3%	51.8%	9.3%	0.9%
	50歳代		295	5.1%	26.8%	53.6%	12.9%	1.7%
	60歳代		257	1.6%	21.8%	52.1%	23.0%	1.6%
	70歳代		298	0.3%	12.4%	36.9%	41.3%	9.1%
性 別	女 性	全 体	777	5.1%	18.9%	45.6%	27.3%	3.1%
		20歳代以下	89	5.6%	18.0%	47.2%	28.1%	1.1%
		30歳代	92	2.2%	29.3%	43.5%	23.9%	1.1%
		40歳代	142	12.7%	24.6%	48.6%	13.4%	0.7%
		50歳代	165	6.7%	20.0%	55.8%	15.2%	2.4%
		60歳代	135	2.2%	16.3%	48.1%	33.3%	—
		70歳代	154	0.6%	9.1%	29.9%	49.4%	11.0%
	男 性	全 体	587	4.4%	24.4%	52.1%	15.5%	3.6%
		20歳代以下	53	7.5%	13.2%	49.1%	26.4%	3.8%
		30歳代	56	7.1%	23.2%	60.7%	3.6%	5.4%
		40歳代	82	15.9%	24.4%	57.3%	1.2%	1.2%
		50歳代	130	3.1%	35.4%	50.8%	10.0%	0.8%
		60歳代	122	0.8%	27.9%	56.6%	11.5%	3.3%
		70歳代	144	—	16.0%	44.4%	32.6%	6.9%



【就業者のみ】

⑨ 職場環境

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う「職場環境」について、「変化なし」が58.7%と最も高く、次いで「悪くなった」が24.7%となっています。

雇用形態別にみると、全ての雇用形態で「変化なし」が最も高くなっています。また、全ての雇用形態で「悪くなった」が「良くなった」を上回っており、特に契約・派遣社員は、「悪くなった」(27.9%)が「良くなった」(9.8%)を18ポイント上回っています。

性・雇用形態別にみると、女性は全ての雇用形態で「悪くなった」が「良くなった」を上回っています。男性は、パート・アルバイト及び会社等の役員は「良くなった」と「悪くなった」が同割合となっていますが、契約・派遣社員及び自営業者は、「悪くなった」が「良くなった」をいずれも22ポイント上回っています。

			N	良くなった	悪くなった	変化なし	該当なし	無回答
全 体			875	8.9%	24.7%	58.7%	4.0%	3.7%
雇用 形態 別	正社員・正職員		435	11.7%	27.6%	57.5%	1.6%	1.6%
	契約・派遣社員		61	9.8%	27.9%	57.4%	1.6%	3.3%
	パート・アルバイト		253	5.9%	22.5%	67.6%	3.2%	0.8%
	自営業者		74	2.7%	18.9%	51.4%	23.0%	4.1%
	会社等の役員		30	13.3%	16.7%	60.0%	3.3%	6.7%
性 別	女 性	全 体	461	8.9%	23.9%	60.5%	3.9%	2.8%
		正社員・正職員	172	14.0%	25.6%	58.1%	1.7%	0.6%
		契約・派遣社員	30	16.7%	30.0%	53.3%	—	—
		パート・アルバイト	212	4.7%	24.5%	67.0%	3.3%	0.5%
		自営業者	26	7.7%	11.5%	50.0%	23.1%	7.7%
		会社等の役員	8	—	12.5%	75.0%	12.5%	—
	男 性	全 体	413	9.0%	25.7%	56.7%	4.1%	4.6%
		正社員・正職員	262	10.3%	29.0%	56.9%	1.5%	2.3%
		契約・派遣社員	31	3.2%	25.8%	61.3%	3.2%	6.5%
		パート・アルバイト	41	12.2%	12.2%	70.7%	2.4%	2.4%
		自営業者	48	—	22.9%	52.1%	22.9%	2.1%
		会社等の役員	22	18.2%	18.2%	54.5%	—	9.1%



【学生のみ】

⑩ 学校の授業や部活動、行事など

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う「学校の授業や部活動、行事など」について、「悪くなった」が76.9%と最も高く、次いで「変化なし」が15.4%となっています。

アルバイト等の状況別にみると、アルバイト等をしている人は、「悪くなった」が81.1%、アルバイト等をしていない人は66.7%と、アルバイト等をしている人の方が、14ポイント上回っています。

性別にみると、女性でアルバイト等はしていない人及び男性は「良くなった」と回答した人はいませんでした。

			N	良くなった	悪くなった	変化なし	該当なし	無回答
全 体			52	1.9%	76.9%	15.4%	3.8%	1.9%
アルバイト等の状況別	アルバイト等をしている		37	2.7%	81.1%	10.8%	2.7%	2.7%
	アルバイト等をしていない		15	—	66.7%	26.7%	6.7%	—
性別	女性	全 体	31	3.2%	74.2%	16.1%	3.2%	3.2%
		アルバイト等をしている	23	4.3%	73.9%	13.0%	4.3%	4.3%
		アルバイト等をしていない	8	—	75.0%	25.0%	—	—
	男性	全 体	20	—	80.0%	15.0%	5.0%	—
		アルバイト等をしている	13	—	92.3%	7.7%	—	—
		アルバイト等をしていない	7	—	57.1%	28.6%	14.3%	—



⑪ 家事や育児、介護の負担

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う「家事や育児、介護の負担」について、「変化なし」が 37.7%と最も高く、次いで「増えた」が 14.3%となっています。

年代別にみると、全ての年代で「変化なし」が最も高くなっています。また、全ての年代で「増えた」が「減った」を上回っており、特に 30 歳代は、「増えた」(29.1%)が「減った」(2.0%)を 27 ポイント上回っています。性・年代別にみると、女性の 20 歳代以下及び男性の 30 歳代から 60 歳代は「減った」と回答した人はいませんでした。また、全ての性・年代別で「増えた」が「減った」を上回っており、特に女性の 30 歳代は、「増えた」(35.9%)が「減った」(3.3%)を 32 ポイント上回っています。

			N	増えた	減った	変化なし	該当なし	無回答
全 体			1,368	14.3%	0.7%	37.7%	43.3%	4.1%
年 代 別	20 歳代以下		144	6.9%	0.7%	38.9%	51.4%	2.1%
	30 歳代		148	29.1%	2.0%	44.6%	23.0%	1.4%
	40 歳代		226	23.0%	0.4%	51.8%	23.9%	0.9%
	50 歳代		295	14.6%	0.3%	48.8%	33.6%	2.7%
	60 歳代		257	11.7%	0.4%	29.6%	56.0%	2.3%
	70 歳代		298	5.7%	0.7%	19.1%	62.8%	11.7%
性 別	女 性	全 体	777	16.7%	0.9%	39.8%	38.7%	3.9%
		20 歳代以下	89	6.7%	—	42.7%	49.4%	1.1%
		30 歳代	92	35.9%	3.3%	45.7%	15.2%	—
		40 歳代	142	26.1%	0.7%	49.3%	23.2%	0.7%
		50 歳代	165	16.4%	0.6%	52.1%	27.9%	3.0%
		60 歳代	135	11.1%	0.7%	33.3%	53.3%	1.5%
		70 歳代	154	7.8%	0.6%	18.2%	59.7%	13.6%
	男 性	全 体	587	10.9%	0.3%	34.9%	49.4%	4.4%
		20 歳代以下	53	5.7%	1.9%	34.0%	54.7%	3.8%
		30 歳代	56	17.9%	—	42.9%	35.7%	3.6%
		40 歳代	82	18.3%	—	54.9%	25.6%	1.2%
		50 歳代	130	12.3%	—	44.6%	40.8%	2.3%
		60 歳代	122	12.3%	—	25.4%	59.0%	3.3%
		70 歳代	144	3.5%	0.7%	20.1%	66.0%	9.7%



⑫ 家庭内のけんかや言い争い

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う「家庭内のけんかや言い争い」について、「変化なし」が60.9%と最も高く、次いで「増えた」が11.4%となっています。

年代別にみると、全ての年代で「変化なし」が最も高くなっています。また、全ての年代で「増えた」が「減った」を上回っており、特に40歳代以下の年代は、「増えた」が「減った」を12ポイント以上上回っています。性・年代別にみると、全ての性・年代別で「増えた」が「減った」を上回っており、特に男性の30歳代は、「増えた」(21.4%)が「減った」(1.8%)を19ポイント上回っています。

			N	増えた	減った	変化なし	該当なし	無回答
全 体			1,368	11.4%	1.8%	60.9%	22.7%	3.3%
年 代 別	20 歳代以下		144	15.3%	1.4%	56.9%	24.3%	2.1%
	30 歳代		148	16.9%	3.4%	58.1%	20.3%	1.4%
	40 歳代		226	15.5%	3.1%	69.5%	11.1%	0.9%
	50 歳代		295	11.2%	2.0%	66.8%	17.6%	2.4%
	60 歳代		257	10.1%	1.2%	64.2%	23.0%	1.6%
	70 歳代		298	5.0%	0.3%	49.0%	36.6%	9.1%
性 別	女 性	全 体	777	11.3%	2.3%	62.7%	20.6%	3.1%
		20 歳代以下	89	14.6%	1.1%	59.6%	23.6%	1.1%
		30 歳代	92	14.1%	4.3%	64.1%	17.4%	—
		40 歳代	142	14.8%	3.5%	70.4%	10.6%	0.7%
		50 歳代	165	12.1%	3.0%	69.1%	12.7%	3.0%
		60 歳代	135	10.4%	1.5%	65.9%	21.5%	0.7%
		70 歳代	154	4.5%	0.6%	46.8%	37.7%	10.4%
	男 性	全 体	587	11.4%	1.0%	58.6%	25.4%	3.6%
		20 歳代以下	53	15.1%	1.9%	54.7%	24.5%	3.8%
		30 歳代	56	21.4%	1.8%	48.2%	25.0%	3.6%
		40 歳代	82	17.1%	2.4%	67.1%	12.2%	1.2%
		50 歳代	130	10.0%	0.8%	63.8%	23.8%	1.5%
		60 歳代	122	9.8%	0.8%	62.3%	24.6%	2.5%
		70 歳代	144	5.6%	—	51.4%	35.4%	7.6%



⑬ 親族との付き合い

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う「親族との付き合い」について、「減った」が 54.8%と最も高く、次いで「変化なし」が 33.0%となっています。

年代別にみると、全ての年代で「減った」が最も高く、特に 30 歳代から 60 歳代は 6 割前後となっています。性・年代別にみると、男性の 20 歳代以下及び 70 歳代を除く全ての性・年代別で「減った」が最も高く、男性の 20 歳代以下及び 70 歳代は「変化なし」が最も高くなっています。

			N	増えた	減った	変化なし	該当なし	無回答
全 体			1,368	2.3%	54.8%	33.0%	7.4%	2.6%
年代別	20 歳代以下		144	3.5%	49.3%	39.6%	6.3%	1.4%
	30 歳代		148	6.8%	60.1%	27.7%	4.1%	1.4%
	40 歳代		226	1.8%	62.8%	30.5%	4.0%	0.9%
	50 歳代		295	1.0%	59.7%	32.9%	4.4%	2.0%
	60 歳代		257	2.7%	58.0%	30.7%	7.4%	1.2%
	70 歳代		298	1.0%	40.9%	36.2%	15.1%	6.7%
性別	女性	全 体	777	2.2%	60.4%	28.4%	6.7%	2.3%
		20 歳代以下	89	4.5%	55.1%	33.7%	5.6%	1.1%
		30 歳代	92	6.5%	66.3%	22.8%	4.3%	—
		40 歳代	142	1.4%	62.7%	29.6%	5.6%	0.7%
		50 歳代	165	0.6%	67.3%	26.7%	2.4%	3.0%
		60 歳代	135	0.7%	67.4%	25.2%	6.7%	—
		70 歳代	154	1.9%	44.2%	32.5%	14.3%	7.1%
	男性	全 体	587	2.6%	47.4%	38.8%	8.3%	2.9%
		20 歳代以下	53	1.9%	39.6%	49.1%	7.5%	1.9%
		30 歳代	56	7.1%	50.0%	35.7%	3.6%	3.6%
		40 歳代	82	2.4%	63.4%	31.7%	1.2%	1.2%
		50 歳代	130	1.5%	50.0%	40.8%	6.9%	0.8%
		60 歳代	122	4.9%	47.5%	36.9%	8.2%	2.5%
		70 歳代	144	—	37.5%	40.3%	16.0%	6.3%



⑭ 友人・知人との交友関係

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う「友人・知人との交友関係」について、「変化なし」が 58.5%と最も高く、次いで「悪くなった」が 30.6%となっています。

年代別にみると、全ての年代で「変化なし」が最も高くなっています。また、全ての年代で「悪くなった」が「良くなった」を上回っており、特に 40 歳代は、「悪くなった」(39.4%)が「良くなった」(2.2%)を 37 ポイント上回っています。性・年代別にみると、女性の 50 歳代及び男性の 50 歳代と 70 歳代は「良くなった」と回答した人はいませんでした。また、全ての性・年代別で「悪くなった」が「良くなった」を上回っており、特に男性の 40 歳代は、「悪くなった」(41.5%)が「良くなった」(2.4%)を 39 ポイント上回っています。

			N	良くなった	悪くなった	変化なし	該当なし	無回答
全 体			1,368	1.6%	30.6%	58.5%	6.7%	2.7%
年代別	20 歳代以下		144	4.9%	32.6%	56.3%	4.9%	1.4%
	30 歳代		148	2.0%	32.4%	58.1%	5.4%	2.0%
	40 歳代		226	2.2%	39.4%	54.9%	2.7%	0.9%
	50 歳代		295	—	31.5%	61.4%	4.7%	2.4%
	60 歳代		257	1.2%	28.0%	61.9%	7.8%	1.2%
	70 歳代		298	1.3%	23.2%	56.7%	12.1%	6.7%
性別	女性	全体	777	1.8%	31.7%	57.5%	6.4%	2.6%
		20 歳代以下	89	4.5%	30.3%	57.3%	6.7%	1.1%
		30 歳代	92	2.2%	32.6%	56.5%	7.6%	1.1%
		40 歳代	142	2.1%	38.0%	56.3%	2.8%	0.7%
		50 歳代	165	—	33.3%	61.2%	1.8%	3.6%
		60 歳代	135	0.7%	28.9%	63.7%	6.7%	—
		70 歳代	154	2.6%	26.6%	50.0%	13.6%	7.1%
	男性	全体	587	1.2%	29.0%	60.0%	7.0%	2.9%
		20 歳代以下	53	3.8%	35.8%	56.6%	1.9%	1.9%
		30 歳代	56	1.8%	32.1%	60.7%	1.8%	3.6%
		40 歳代	82	2.4%	41.5%	52.4%	2.4%	1.2%
		50 歳代	130	—	29.2%	61.5%	8.5%	0.8%
		60 歳代	122	1.6%	27.0%	59.8%	9.0%	2.5%
		70 歳代	144	—	19.4%	63.9%	10.4%	6.3%



7 自由回答

最後に、男女共同参画について、ご意見がありましたら記入してください。

男女共同参画についての意見を自由回答形式で求めたところ、102 人から回答がありました。回答内容は次のとおりです。

1. 男女共同参画に関する意識等について(48 件)

- ・日本の場合、男性が優位になっているように思う。昔からの慣習が残っているような気がする。(男性・70 歳代)
- ・男女平等を推進する制度や施策を増やして欲しい。(男性・40 歳代)
- ・普段意識していませんでしたが、こういう機会を与えていただき、これからは「男女共同参画」について考えることをしていきたいと思います。(女性・50 歳代)
- ・男性自身が協力していく自覚を持つことが必要だと思う。(男性・70 歳代)
- ・「男女共同参画」という言葉のニュアンスから、女性を優遇し過ぎているように感じるが多々ある。(男性・70 歳代)
- ・男女共同参画は良いことですが、どの職場も男女にとって、ちょうど良く参画できる環境というものはないと思います。それでも行政が推し進めることで、少しずつ男女共同参画が当たり前になっていくことを期待して、自分としても心掛けていきたいです。(男性・50 歳代)
- ・男女共同参画について、貴重なアドバイスをいただき嬉しく思います。(女性・60 歳代)
- ・大学では、ジェンダーの問題を扱った講義を受けていたことから、「男女共同参画」について知識がある。そういう講義を中・高生の時にも授業として扱うことで、若い世代により「男女共同参画」について身近に感じられるのではないのでしょうか。圧倒的に学ぶ機会が少ないと感じます。(女性・20 歳代)
- ・男性がこうとか女性だからこうといった概念は、まだまだ根付いているかと思います。よりよい社会にできたらと願っていますので、よろしくお願いします。(男性・20 歳代)
- ・誰もが生き易い世の中は実現可能と信じて、一度きりの人生を楽しみたいものです。男も女も大人も子どももかけがえのない一人ですから。全員で一色にならなくていい。パッチワークのようにみんなの個性を生かしながら、それがつながって一面になればいいです。平塚をそんな街に。(女性・60 歳代)
- ・もともと夫は家事に非協力的なので期待していない。(女性・40 歳代)
- ・男性にしかできないこと、女性にしかできないこと、それぞれあります。男女平等を言い過ぎないで欲しい。(女性・40 歳代)
- ・男女共同参画社会と言うと男女同権などの話になりますが、お互いの能力を認め合い、協力して生活できる社会の実現を希望します。(男性・60 歳代)
- ・男女共同参画を推進するためには、まず国会や地方議会の議員の男女比を同じにするべきだと思う。(男性・50 歳代)
- ・男女平等も男女対等もまだまだ日本では程遠いと思っています。何だかんだ言っても、やっぱり男性の方がどんな事にも優位で、女性は下に見られる。”対等”と言うならもっとお互いの性を認め

合う必要がある。どうしても向き不向きはあるので。その上で男性も女性も役割を決めるのが大事。相手の不向きを補い合える社会になるといいと思っています。今の社会には”ヘド”が出ます。弱者と言われている人たちがいる限り、よい国ともよい地域とも言えないと思います。（女性・40歳代）

- ・男女共同参画に関する教育も積極的に取り入れて、お互いを理解したり、個性を認めたり、すぐに相談できる環境が必要だと思います。（女性・60歳代）
- ・職業による男女の区別が少なくなっているように感じます。男性の保育士や看護師等が多くなるといいですね。また、女性のバスの運転手をお見掛けすると嬉しくなります。（女性・70歳代）
- ・私は幼少期から、男性優位な環境で育ってきました。やはり、一昔前はそのようなことが強かったと思いますが、今、日常生活の中で娘夫婦が協力し合って生活している様子を見ると安心します。男女問わず、皆が対等であって欲しいです。（女性・60歳代）
- ・男性と全て平等にするのは、まだ難しいと思えます。（女性・60歳代）
- ・男女平等について、日本は他国と比較して遅れていると思います。日本の歴史からみると、女性の社会進出が遅れてしまうのは仕方がないことだと思いますが、古い考えに固執している気がします。男女にかかわらず、育児休暇を取得するために法的拘束力を持たせるなどしないと、男女平等は実現できないと思います。（女性・10歳代）
- ・「男女共同参画」の話になると、研究者によっては「女性擁護」になるなど、女性に偏った論点になりがちだが、男女平等に論じる視点を忘れないで欲しい。（男性・30歳代）
- ・生理の貧困や、DV等についてオープンに語られ、またそれらを当人が自分で責任を負うことなく、助けを求めれば救いの手が差し伸べられるなど、世の中が少しずつ良くなってきていると思います。男女共同参画がもっと推進されて、男女の性差がもっと肯定的に捉えられ、それぞれの特性が活かされた生き方やライフスタイルが尊重されるようになると、全ての人々がもっと生きやすい世の中になると思います。（女性・70歳代）
- ・男女共同参画は、若い世代には受け入れやすいように思うが、年配の世代には、今まで生きてきた生活習慣や社会概念等があり、容易に浸透していかないと思う。男性の育休制度等は、一応制度化されたが、まだまだ利用している人は少ないと思われる。残念なことです。男女共同参画の考えや制度が広く受け入れられるには、まだまだ時間がかかると思うが、そういう社会づくりに貢献できることがあれば協力したいと思う。（女性・50歳代）
- ・全ての人に配慮することは難しいですが、このアンケート自体にも若干のバイアスを感じました。平塚市は他市と比較しても男女共同参画（特に子育て支援やパートナーシップ制度など）が進んでいると思うので、これからも期待しています。（女性・20歳代）
- ・各個人や各家庭によって、職種や生活のリズムが違うので、平等は難しいと思う。大方の女性は、家庭のことや子育てに関して、男性に協力してもらうことを諦めていると思う。（女性・40歳代）
- ・もともと男性と女性は、生物として異なる性質を持っているのだから、無理に比較して同一にする必要もないと思う。（男性・70歳代）
- ・何でもかんでも男女平等にしようという風潮があるが、男性、女性それぞれ特性があるから、全てを男女平等にするには無理が生じると思う。（男性・70歳代）
- ・まだまだ男性の方がえらいと考えている60歳以上の男性が多くいると思います。世の中の人達が多分考え方を変えて、伝えて欲しいです。（女性・60歳代）

- ・もっとイクボス養成教室を開催して欲しいです。私の上司に受講させて、是非イクボスになって欲しいです。また、女性の妊娠や出産に関する制度について、どんどん見直しを行い、より良いものになって欲しいです。（女性・30歳代）
- ・男女雇用機会均等法が施行され30年が経ちましたが、未だに政治・社会においては男性優位が続いていると思います。男女共同参画を推進しており、男女平等な社会だと言われていますが、現状では、組織のリーダーは男性で、女性はサポート的な立場が多いと思います。家庭においては、育児や介護の女性の負担が大きいと思います。今の20代、30代の方たちが、社会において引っ張っていく立場になる頃には、もっと男女共同参画が推進されている社会になっていることを願います。（女性・60歳代）
- ・問8の「誰が担うのが望ましいと思うか」という設問に引っ掛かりました。それぞれの家庭で、様々な役割分担があると思ったので、「その他」を選択しました。男女共同参画社会の実現のために大切なことは、必ずしも男女の分担が平等になることではなく、しっかりと各家庭で話し合ったうえで、お互いが合意しているのであれば、例えどちらか片方に負担が偏っているとしても男女共同参画は実現できているのではないのでしょうか。（女性・20歳代）
- ・男女共同参画が推進されていることが、果たして望ましいものなのか疑問が残ります。昔の様な男尊女卑は、世界からも批判されましたが、そのような批判に一喜一憂するのではなく日本人は自国の文化にもっと自信を持つべきだと思います。家事や育児について、女性の負担が男性に比べて大きく、男性側の配慮が足りないことは事実なので、その点については、男性側がもっと理解して配慮すべきだと思います。（男性・60歳代）
- ・若い世代は比較的、男女が協力して家事、育児をしているような気がします。私たちの親世代である70代以上が、女性はこうあるべき、嫁はこうあるべきを押しつけてくるような気がします。これからの世の中、夫婦2人で協力しないとやっていけないと思うので、「こうあるべき」の固定概念をなくして、皆で協力して育児や家事、地域のことをやっていけたらよいと思います。（女性・50歳代）
- ・最近では、男性が1年間の育休を取るなど、私達の世代とは隔世の感があります。しかし、育休を取りやすい雰囲気や理解度には、職場によって天と地の差があると思います。無意識に意識改革をして、男女共同参画を推進するためには、子育て世代からの親の考え方、育て方をサポートする必要があると思います。（女性・70歳代）
- ・アンケートを通じて、男女共同参画について改めて考える機会になりました。自分が幼少期から大人になるまでの40年ほどの間でも、かなり世の中の感覚が変化して、だいぶ生きやすくなったと思います。アンケート実施ありがとうございます。（女性・40歳代）
- ・男女共同参画に関する教育をもっと義務教育に盛り込んで欲しいと思います。また、現在の職場では、全社員やマネジメント職を対象とした研修を行い、ダイバーシティ（多様性）の意識が高まり、育休を取りやすい雰囲気になってきたと思います。もっとこの意識が広まればと思います。（女性・40歳代）
- ・今までの固定観念をとっばらう必要がある。（男性・50歳代）
- ・男女共同参画の推進に異議はありませんが、男、女、他としてその個を尊重することも必要だと思う。（男性・50歳代）
- ・取り組みは賛同できるので進めてほしいです。自分も含めアンコンシャスバイアスは大きな課題だ

と感じました。特に年齢を重ねた場合、将来をこれから背負う未来ある人たちのために、これから頑張ろうとする人は少ないのではないかと考えます。こうした男女のみならず、年齢、人種、地域、文化、宗教、多様な価値観の違いを受け入れるための準備を進めていただきたい一方で、差別化により得られる優位性の確保の自己実現の向上の両立を目指して欲しいです。また責任だけが重くなるのではなく、きちんと責任や義務を果たせる仕組みづくりをしていってほしいです。（女性・30歳代）

- ・その理念が叶っている社会を見てみたい。人類にとって、有益であるのか？新たな課題が発生しているのか？個人の個性と能力が、十分に発揮できる社会の実現は必要だと思う。男性 50 代である私は色々な恩恵を受け、自分が思う以上に自分の個性と能力を十分に発揮できているのだと思う。それが、誰かの犠牲や制度のおかげであるのならば、その制度などを見直す必要があると思う。恵まれている側がすべきことは多々あると思うが、それを簡単に手放すとは思えない（私も意識したことがないけど、そうしているのだと思う）。行政ができることもあると思うし、教育が必要なこともあると思う。私は、私たち人類の社会（世界）は必ず良い方向に向かっていくと信じている。人類にとって「男女共同参画社会」が良いことであるならば、いずれ実現できると思っている。でも、そのためには私自身の再教育が必要なのでしょうね！多分・・・（男性・50歳代）
- ・個々の感性とかも絡むと思うので、まだまだ理解をしてもらうことが難しいところもあるのかと思います。（男性・50歳代）
- ・日本の代表と言われる政治家たちを見てくださいよ。口だけで、男女共同参画社会の推進は生きているうちには実現しないように思えます。孫の代あたりには、清々しく働き、家庭生活を送れる世界になっていけばいいなと思います。（女性・50歳代）
- ・男女平等や男女共同という言葉があるうちは実現できておらず、理想だと思う。有能、無能は性別に関わらないものなので、有能と評価される人物が性別や立場にとらわれずに活躍出来る社会が実現できることがなにより。間違っても数合わせの為に能力の無い人物を登用して有能な人物を排除しないように畑違いの有能とされる人を登用するのも害悪だと思う。特定のポストがその時々で男女差があったとしても、長い目で見てバランスが取れているならそれは平等だと思う。毎回必ず同数同率としようとするのは正しく無い平等だと思う。（男性・50歳代）
- ・男女の差に限らず、人それぞれの能力が異なるのであるから、「みんな同じことをする」ではなく「あの人はこれができる」、「この人はこの部分は不得手なので、そうではないことをしてもらう」という意識を皆が共通して持つことが大切であると考えます。（男性・60歳代）
- ・未だに男女共同（さらには女性活躍支援）という表現や活動をしている時点で世界から大分遅れている。日本全体ではまだ男性が中心の社会の中、男女共同や女性活躍支援に関わる人（組織や提言者など）だけが逆に女性だらけなのも疑問。男性やLGBTも積極的に関わるべき。ダイバーシティ&インクルージョンやSDGsが叫ばれている現在、女性蔑視や男女均等などよりも、もっと先の生活者（LGBT、高齢者、障がい者、外国人、妊婦、傷病者）が等しく暮らしやすい社会を見据えた動きをすべき。（男性・40歳代）
- ・個人の自由意志が尊重されればいいのでは？こだわり過ぎるのも良くないと思う。（生物学的に）（男性・40歳代）
- ・男女共同参画を日本社会に根付かせるには、夫婦別姓を制度として実現させることが必要だと思います。この根本的な問題を解決することなく表面的に「男女共同参画」を唱えても、お互いのアイ

デンティティを尊重できる社会でなければ、日本社会は本当に変わることはできないと思います。
(女性・40 歳代)

- ・男女共同参画に参加する人間の男女比率を同じか、女性を多くしてほしい。(女性・30 歳代)

2. 女性の参画について(14 件)

- ・いまだに女性が天皇になられたことがない、保育士、介護士、看護師など女性が多い(多かった)職種は給与が低いなど、まだまだ男女平等が実現できていないと思う。理想ばかりが高くなり、現代社会にはそれを実現する余裕がないと思う。(女性・60 歳代)
- ・様々な分野において、女性の能力が発揮できるようになれば良いと思います。(男性・70 歳代)
- ・1 歳未満の子どもがいる母親でも働けるような、自宅でできる仕事をもっと増やして欲しい。(女性・30 歳代)
- ・育休後等の女性が再雇用されやすい社会になることを望みます。(男性・60 歳代)
- ・地域の活動において、男性の役員が圧倒的に多く、女性の意見がなかなか反映されず残念に思うことがあります。(女性・60 歳代)
- ・時代の流れとともに、女性の働き方や意識は変わってきていると思いますが、本当の意味での平等は女性も覚悟が必要であると感じます。これからの若い人たちを応援したいです。(女性・60 歳代)
- ・女性が働くには、今の各種制度は中途半端だと感じます。子どもを預ける場所を探すのに苦労し、子持ちでも働ける場所を探すのにも苦労し、保育費を工面すると、私のパート代はほとんど残りません。それでも社会に関わりたい、夫に金銭面でDV的発言をされたくないとの思いで働いていましたが、2 人目を出産して育休中の今、保育園が決まらなかったら退職してもらおうと言われ絶望中です。2 人同じ保育園に入れなかったら、生活時間も厳しくなるし、かといってそれに見合う収入が得られるわけではないのに。子どもを育てながら働けるために、給与を上げ、預ける施設の充実、会社の理解など改善すべきところはたくさんあると思います。(女性・30 歳代)
- ・同じ職種でも、男性は正規、女性は非正規が多いと思います。市役所などで働いている方でも、非正規職員と思われる女性の方が、夕方くらいに一足先に帰る光景を見かけますので、まずは市役所が見本になって女性の正規職員をもっと増やして欲しいと思います。特に、いわゆる氷河期世代の積極的雇用を進めて欲しいと思います。(女性・40 歳代)
- ・某医科大学のように入学試験で足切りされ、職場でもいずれ結婚して退職するからと意志を無視されて収入も昇進も上げてもらえないままである。これでは女性の活躍は望めず、若い世代にも負の遺産を引き継ぐことになる。働き、より社会に貢献しようという意欲があっても天井に阻まれる世の中では「男女共同参画」などは言葉だけの代物である。(女性・40 歳代)
- ・現在は共働き世帯が増えているが、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方の環境の中で育った子供は根強くその考えを持っていると思う。結婚すると相手にもその考えを強要する。経済面も含め、相手が納得しているのであればいいが、納得していないのあれば、相手はストレスになる。家庭内には評価がない。「やって当たり前だ」と感謝がない。女性にも社会との繋がりは必要であり、評価は必要である。女性が活躍する社会になって欲しい。(女性・40 歳代)
- ・世の中の女性はホルモンバランスによる体調不良でたくさん悩んでいると思います。生理休暇という名前の休暇では恥ずかしくて取得したくありません。そのため、女性ホルモンや生理による体調不良の治療に世間的にもっと認知が広まり、そういった女性を救える医療制度や、もっと男性にも

苦しみを理解してもらえよう世間になって欲しいものです。身体の作りが違うのに男女平等の仕事をする負担が多いと思います。仕事上必ず平等になりたい女性ばかりではありません。（女性・20歳代）

- ・昨年、会社で一緒に働いている先輩の女性が結婚しました。それ以降、会社の上司(男性)はその女性が担当していた仕事を私に全部引き継ぐようにと指示するようになりました。（別の意図もあるとおもいますが…）一人ではやり切れないので、その女性にも手伝ってもらっている状況です。会社は、その女性が妊娠して産休に入りやすいようにしているか、それを恐れていると感じます。業務を安定的に遂行することは大切で、その女性が妊娠してから業務引き継ぎを始めていたら遅いということも分かります。上司がどこまでその女性とコミュニケーションを取れているかは分かりません（多分取れていません）。その上司は無意識的にも意識的にも脅威を感じ、その女性の担当業務を私に割り当てたと感じます。その脅威は、会話をして初めて解消していくものだと感じます。しかし、もし私が上司の立場だったとしても年齢差のある中できつと聞けないんだろうなと思います。セクハラになってしまう。そう考えると、その女性と会社の上司の両方の気持ちの分かる女性がいて、調整してくれたらいいのかなあと今思いました。（男性・30歳代）
- ・私は完全に男女平等が良いとは思っておりません。それぞれの家庭に合った、それぞれの役割をして、互いに理解し協力し合えばいいのではと思います。しかし、子育てをしていると働く上で女性が不利になると感じています。息子が2歳の頃、パートで働いていましたが、風邪で仕事を休むのも当然私。職場に頭を下げるのも、私。月にほぼ出勤できないことも多かったです。それなのに保育料はもちろん引かれます。コロナ前でしたが、コロナの今はもっと大変な思いをされているのではないかと思います。それを思うと、子育ての息抜きとして働きたいと思う気持ちもありますが、迷惑をかけることの方が多く、また小学生になった長男の帰宅時間などを考慮すると働けずにいます。時代に合わないPTA活動はやはり負担が多いです。企業の徹底的な理解、時代に合わせていくべきだと感じます。（女性・20歳代）
- ・女性がリーダーになると、どんな世界になるのか分からないが、今までの悪い風習等が無くなるよう期待している。特に子育てなどは、今も女性が主に担っており、男性では分からない負担を楽にするような制度が出来れば、若い女性が安心して子育てが出来るのではないだろうか。（男性・30歳代）

3. ワーク・ライフ・バランスや家庭生活について(8件)

- ・現職を退いてから人との交流も減り、若い世代の方々の考え方に半分程度しかついていけませんが、日々もっと充実させようと思いました。（女性・70歳代）
- ・男女共同参画を進めるためには、ワーク・ライフ・バランスの実現が前提になると思われます。男女で効率良く働き、家庭や地域に責任を持てるような仕組みができれば、子育てや高齢者の介護の面でも多くのプラスを生み出すことができると思います。（男性・60歳代）
- ・医療現場で、ワーク・ライフ・バランスのため様々な工夫をしながら勤務してきたが、どうしても時間外労働が多く、有給休暇も毎年全て消化できなかった。自身の体調が悪くても休みづらく受診もできなかったりして、現在仕方なく退職した。もっと働きやすい制度があればいいと思う。（女性・40歳代）
- ・現在20代で一人暮らしをしています。教員（高校）として、毎日、夜遅くまで、そして休日も部

活や授業の準備に追われ、とても子育てをする時間が取れるようなイメージが湧きません。仕事と子育てが両立できるように、夜間や土日に対応してくれる保育所をもっと増やして欲しい。(女性・20歳代)

- ・男性が育休を取りやすい職場が増えればいいと思う。(女性・20歳代)
- ・家庭内のことは、全て夫婦で協力してやるような健全な生活を築いて欲しいです。仕事においても残業しないでも安定して生活できるような社会になって欲しいです。(女性・70歳代)
- ・男女共同参画とは少しズレているかもしれませんが、大人になってからではなく、幼少期から少しずつ男女に関係なく互いの人権を尊重し合い、将来家庭をもった時に自然に家事・育児に協力し合える様々な教育をして欲しいと思います。又、男性の育休制度の拡充が職種によって全くなされていないのでもっともっと遠慮なく取得出来るようにすべきだと思います。(女性・70歳代)
- ・もともとは共働きでしたが、現在は専業主婦のため、特に意識しているつもりはありませんが、家庭のことはすべて自分が引き受けています。本当は働き続けたかったと今でも思うことがあります。しかし、フルタイムの育児は本当に大変で、母親はこうあるべき、という自分の勝手なプレッシャーに負けてしまい、体調を崩して、結局退職してしまいました。多様性と言いますが、幼い頃から染み込んだ意識を変えるのは大変だと思います。そういう意味では、教育も大切なんだと思います。それが繋がっていつか、性別とかにとらわれない社会、選択肢がたくさんある社会になればいいと思います。(女性・50歳代)

4. DVや人権について(3件)

- ・親しい人からの暴力は、被害者からすると計り知れない心の痛み(一生残ることもある)であることを、加害者は思い知る必要があるので、重い罰を科してほしい。(女性・20歳代)
- ・あまり周知されていないので広告等でたくさんの人に知って欲しい。助けて欲しくて1人で悩んでいる人に少しでも役立てる企画になるように活動の幅を広げてもらえたらと思う。(女性・50歳代)
- ・まだ、平等とは思えない環境だと思う。DVについて、特に死に至らないで保護がちゃんと出来る制度を作り、近所に駆け込み寺的な所があって、相談などに行ける場所を作ることが出来れば、少しは救える生命があるかと思う。母子家庭、父子家庭も平等な環境で安心して出来る制度があれば良いと思う。ジェンダー平等も気軽に言えて、受け入れられる環境になることを市などを通して浸透出来れば良いと思う。(男性・40歳代)

5. セクシュアルマイノリティについて(5件)

- ・パートナーシップ宣誓制度はとても良い取組だと思いました。(男性・20歳代)
- ・男女共同参画とLGBTって何か変です。男女の平等と性差別の平等＝平等とは何か？と思う。男女別にその能力があり、そこに役割分担があつての平等ではないのかと思う。(男性・60歳代)
- ・私の周辺に該当者がいないため、現実感が有りませんし、もし居られても他の友人と同じく差別なく接することができると思います。(男性・70歳代)
- ・特に気にせず平等に接していれば良かったものが、EU圏で男女やLGBTが話題になってからやたらと過敏に反応するようになり、変な意識が生まれている気がする。もともと平等に接していればよかったのに、当事者へ過剰な配慮をしている部分もあり、性別で意識的に対応を変えているのが当然だった様な社会だったことが個人的に残念。賃金の男女格差も同じ業務をしていて、どうし

て女性は少ないのかが疑問であり、そもそも何故疑問に思われず男性と同じ金額にせずに続いていたのか、世帯収入も上がり自由度が増えるだけのことが何故抑制されてきたのか分からない。（男性・20歳代）

- ・パートナー制度は、同性結婚を認めて初めて生きる制度だと思う。男女カップルがパートナー制度を沢山利用していれば、同性カップルも使いやすくなると思うが「マイノリティの人の結婚は、わざわざ認めない」と言っているような制度にも見える。そう思うと結婚を認めない意味が分からない。結局のところ、結婚を認めない理由ははっきりしていなくて、ただの差別になっていると思う。誰にも言えなくて悩んでいる人にとっては、かえってノーマルじゃないと見られてしまう恥ずかしさを増加させる様な制度になってしまうと思う。事実婚が当たり前の国なら良いと思う。結婚していない男女のカップルに沢山使ってもらいたい制度なのかマイノリティと言われてしまう人に使ってもらいたい制度なのかによって、勧める方法や、受け取る印象にも違いが出ると思う。マイノリティと言われてしまう人には使いにくく、男女カップルには使うメリットがいまいち分からないという事にならないでしょうか。再婚まではしない事実婚カップルのための方が現実的で、同性結婚を認めた上で使って貰うのが良いと思う。（女性・40歳代）

6. その他(24件)

- ・色々知らないことが多く、勉強になりました。ありがとうございました。これからもよろしく願いします。（女性・70歳代）
- ・当調査の回答対象者について、男女比の構成は1：1で、年代もバランスが取れていることが望ましいと思われる。（男性・70歳代）
- ・男女共同参画推進事業について、予算規模はどの程度でどのような成果があがっているのでしょうか。（その他・40歳代）
- ・問4について、「育児・子育て」に費やす時間は24時間であるため、他の項目と合計して24時間と回答することは難しかった。設問の仕方を工夫して欲しい。（女性・30歳代）
- ・お互いに思いやる気持ちを持つこと、人と人との会話を増やすこと、社会に何が貢献できるか、自分でできることを行動に移すことが大事だと思います。今まで生きてこられたこと、健康であることへの感謝を持って、住んで良かった「平塚」と思えるよう頑張りたいと思います。（男性・70歳代）
- ・とても質問が分かりづらく、回答しづらかった。（女性・50歳代）
- ・今回のアンケートについて、問10において他の所では該当なしがあるが、こちらではないので人によっては相手がいるのが当然ととれるような内容になっているので、設問設定にもう少し気を配った方がよいと思います。（男性・30歳代）
- ・知らない事があった。（男性・70歳代）
- ・今の時代は、1人ひとりが生きやすい時代にはなっていますが、色々な悩みに対してまだまだ相談できない人もいっぱいいると思います。言っても大丈夫、1人ひとりがこれでいいんだ、生きているって素晴らしいと思えるよう、平塚市もPRなどががんばってやって欲しいと思います。よろしくお願いします。（女性・50歳代）
- ・子育てや介護が労働としてもっと評価され、誇りを持てる社会になるべきだと思います。子育てや介護について、自ら行いたい人、または他人の手を借りたい人が、それぞれ希望できるサービスを

- 選択できるような社会になって欲しい。（女性・60 歳代）
- ・ 当調査の結果をしっかりと検証し、若い世代が生きやすい社会にして欲しいと思います。（女性・60 歳代）
 - ・ 男性の育休制度をもっと広げて欲しい。あと、保育士の給与をもっと上げて、保育士の数を増やして欲しい。（女性・30 歳代）
 - ・ 公務員が手本となって、見せて欲しい。（男性・60 歳代）
 - ・ 75 才の私にとって少しかけ離れたものもあり、難しかった。（女性・70 歳代）
 - ・ 問 5 について、結婚以来、家族で営む自営業だったので、企業の有給休暇制度等には全く縁の無い生活を過ごしてきました。そのため答えが分かりませんでした。（女性・70 歳代）
 - ・ 男も女も、所詮同じ人間であると思う。（男性・20 歳代）
 - ・ 平塚市がより良い市になることを期待しております。（女性・30 歳代）
 - ・ 想定されている前提、期待している回答、みたいなものが一部透けて見えるアンケートで不快です。（女性・30 歳代）
 - ・ 男子が可哀想な世の中（男性・10 歳代）
 - ・ 様々な考えや職種がある以上、全てはその会社次第だと思います。行政が会社に対して、「周知」や「提案」ではなく、「圧力」や「強制」してでも変化させる意思を示さないとずっと今のままだと思います。（男性・20 歳代）
 - ・ 毎日同じ様な行動パターンで生活していると、新しいことについていけず常に出遅れてしまうので、色々な情報を発信し続けて欲しい。（女性・50 歳代）
 - ・ このアンケートの結果が少しでも市政に反映されて、平塚市が少しでも住みやすいまちになればと思います。（女性・50 歳代）
 - ・ 男女ともに経験や得意分野、特技などが分かりやすい仕組みをつくる。（男性・70 歳代）
 - ・ プラン 2017 を存じ上げませんでしたし、実際、何かが変わった実感はありませんが、考え方や市としての方向性には賛同致します。ただ、男女共同参画より重視していただきたい事は、介護保険の使い方です。認定されている品物であれば、通販からの購入でも使えるようにしていただきたいです。また、介護施設やデイサービス業者の監督強化です。また、家族と同居できる施設が出来るとう家族は安心できます。望めば家族と一緒に生活をしながら死を迎えられるようになることを願います。施設に預けられること、預けることはどちらにとっても精神的な傷が大きいです。（女性・50 歳代）



調査票



あなたご自身やご家族のことについてお聞きます。【令和4年9月1日現在】

項目ごとにあてはまるものを1つずつ選んでください。

① 性 別	1 女性 2 男性 3 その他	※ご自身の主観により答えてください	
② 年 齢	1 10歳代 2 20歳代 3 30歳代 4 40歳代 5 50歳代 6 60歳代 7 70歳代		
③ 結 婚	1 結婚していない 2 結婚していたが離婚・死別した 3 結婚している (事実婚・同性カップルを含む)		※アルバイト等も働いているものとして 答えてください ① 共働きしている ② 片働きしている ③ 二人とも働いていない
④ 世帯構成	1 単身（ひとり暮らし） 2 夫婦のみ（事実婚・同性カップルを含む） 3 二世帯世帯（親と子） 4 三世帯世帯（祖父母と親と子） 5 その他（ ）	※同居している子ども等はいない	
⑤ 同居して いる子ども	1 いらない 2 いる		※あてはまるものを<u>すべて</u>選んでください ① 小学校入学前 ② 小学生 ③ 中学生以上 
⑥ 就 業 ※最もあて はまるものを 1つ選んでく ださい	1 している 2 していない 3 学生	 	① 正社員・正職員 ② 契約・派遣社員 ③ パート・アルバイト ④ 自営業者（農林漁業、商工業、サービス業、開業医、 弁護士、芸術家、作家など） ⑤ 会社等の役員 ① 育児・介護等のため、一時的に休業中 ② すぐに働きたい ③ いずれ働きたい ④ 働くつもりはない ① アルバイト等をしている ② アルバイト等はしていない

男女平等意識と実態についてお聞きします。

問1 次の①～⑦について、男女の地位は平等になっていると思いますか。項目ごとにあてはまるものを1つずつ選んでください。



	男性優位	男性優位 どちらかといえば	平等	女性優位 どちらかといえば	女性優位
① 家庭生活	1	2	3	4	5
② 職場	1	2	3	4	5
③ 学校教育の場	1	2	3	4	5
④ 政治の場	1	2	3	4	5
⑤ 法律や制度上	1	2	3	4	5
⑥ 社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5
⑦ 地域活動(自治会、PTA、ボランティア活動など)	1	2	3	4	5

問2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どう思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

- 1 そう思う
- 2 どちらかといえばそう思う
- 3 どちらかといえばそう思わない
- 4 そう思わない

問3 男女共同参画に関する次の言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

- | | |
|--|-----------------------------|
| 1 男女共同参画社会 | 2 男女共同参画週間（毎年 6/23～29） |
| 3 女性活躍推進 | 4 ジェンダー（社会的性別） |
| 5 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和） | 6 育児・介護休業法 |
| 7 イクメン | 8 イクボス |
| 9 ドメスティック・バイオレンス（DV） | 10 デートDV |
| 11 女性に対する暴力をなくす運動（毎年 11/12～25） | 12 マタニティ・ハラスメント |
| 13 性と生殖に関する健康と権利
（リプロダクティブ・ヘルス／ライツ） | 14 ポジティブ・アクション
（積極的改善措置） |
| 15 アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み） | |

※ 言葉の意味については「用語の説明」をご覧ください。

仕事や家庭、地域生活などについてお聞きします。

問4 次の①～⑨について、費やしている時間は一日のうちどれくらいですか。項目ごとに記入してください。配偶者がいる方は、その方についても、(2)にて答えてください。該当しない項目は、枠内に「-」を記入してください。

(1) あなた

	仕事や学校のある日	休みの日 仕事や学校のない日
① 仕事・学校(通勤・通学時間除く)	時間 分	
② 通勤・通学時間	時間 分	
③ 家事(炊事、買い物、洗濯、掃除など)	時間 分	時間 分
④ 育児・子育て	時間 分	時間 分
⑤ 介護・看護	時間 分	時間 分
⑥ 地域の活動(自治会活動等)	時間 分	時間 分
⑦ 個人の時間(学習、趣味、友人付き合いなど)	時間 分	時間 分
⑧ 睡眠時間	時間 分	時間 分
⑨ その他	残りの時間	残りの時間
合 計	24時間 00分	24時間 00分



(2) 配偶者

	仕事や学校のある日	休みの日 仕事や学校のない日
① 仕事・学校(通勤・通学時間除く)	時間 分	
② 通勤・通学時間	時間 分	
③ 家事(炊事、買い物、洗濯、掃除など)	時間 分	時間 分
④ 育児・子育て	時間 分	時間 分
⑤ 介護・看護	時間 分	時間 分
⑥ 地域の活動(自治会活動等)	時間 分	時間 分
⑦ 個人の時間(学習、趣味、友人付き合いなど)	時間 分	時間 分
⑧ 睡眠時間	時間 分	時間 分
⑨ その他	残りの時間	残りの時間
合 計	24時間 00分	24時間 00分



問5 仕事と子育て・家庭生活を両立するために、行政や企業（職場）においてどのような取組が進めば良いと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

(1) 行政

- 1 認可保育所・認定こども園の増加
- 2 幼稚園の預かり保育の充実
- 3 保育サービスの充実（認可保育所の延長保育や一時預かり、病児保育など）
- 4 フルタイム勤務以外の多様な働き方にも対応する仕組の整備
- 5 育児休業・介護休業中の賃金その他経済的補償の充実

その他

何かあれば記入してください：



(2) 企業（職場）

長時間労働の抑制について

- 1 定時退社の推奨
- 2 時間外労働削減のための対策
- 3 始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げ（労働時間は同じ）

年次有給休暇の取得促進について

- 1 有給休暇取得の奨励
- 2 半日単位での有給休暇取得が可能
- 3 時間単位での有給休暇取得が可能

制度・施設等の整備について

- 1 育児休業や介護休業、子の看護休暇制度の充実
- 2 短時間勤務、在宅就業制度（テレワーク等）、フレックスタイム制度など、フルタイム勤務以外の多様な働き方の充実
- 3 再雇用制度（退職者をパートタイマー等で優先的に雇用する制度等）の充実
- 4 事業所内保育施設の設置
- 5 各種制度等を利用しやすい職場風土づくり

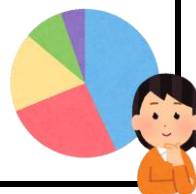
その他

何かあれば記入してください：

問6 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）※」を実現できていると思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

※ やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても自ら希望するバランスで展開できる状態であること。この設問において、就業していない方は、家事、育児・子育て、介護・看護などを「ワーク（仕事）」として答えてください。

- 1 実現できている
- 2 おおよそ実現できている
- 3 あまり実現できていない
- 4 実現できていない
- 5 わからない



問7 次の①～④について、あなたの家庭では主に誰が担っていますか。項目ごとにあてはまるものを1つずつ選んでください。（配偶者には事実婚等のパートナーも含みます。）

	主に自分	主に配偶者	夫婦が同じくらい分担	夫婦以外の家族	家族で交代・分担	有償サービスの利用	該当なし
① 家事（炊事、買い物、洗濯、掃除など）	1	2	3	4	5	6	7
② 育児・子育て	1	2	3	4	5	6	7
③ 介護・看護	1	2	3	4	5	6	7
④ 地域の活動（自治会活動等）	1	2	3	4	5	6	7

問8 次の①～④について、誰が担うのが望ましいと思いますか。項目ごとにあてはまるものを1つずつ選んでください。



	主に夫	主に妻	夫婦が同じくらい分担	夫婦以外の家族	家族で交代・分担	有償サービスの利用	その他
① 家事（炊事、買い物、洗濯、掃除など）	1	2	3	4	5	6	7
② 育児・子育て	1	2	3	4	5	6	7
③ 介護・看護	1	2	3	4	5	6	7
④ 地域の活動（自治会活動等）	1	2	3	4	5	6	7

ドメスティック・バイオレンス(DV)についてお聞きします。

問 9 次の①～⑭のようなことが、配偶者やパートナー、交際相手の間で行われた場合、それを暴力
※だと思いませんか。項目ごとに 1 つずつ選んでください。

※ 身体的・精神的・社会的・経済的・性的暴力などをいいます。

問 10 次の①～⑭のようなことが、過去 1 年以内に配偶者やパートナー、交際相手に対して、「した」
「された」 経験がありますか。項目ごとにあてはまるものを すべて選んでください。



	問9		問10		
	暴力だと		1	2	3
	1	2			
① 平手で打つ	思う	思わない	した	された	経験は ない
② 殴るふりをして脅す、刃物等を突き付けて脅す	思う	思わない	した	された	経験は ない
③ 大声でどなる	思う	思わない	した	された	経験は ない
④ 大切にしているものをわざと壊す・捨てる	思う	思わない	した	された	経験は ない
⑤ 相手の交友関係や電話を必要以上に監視する	思う	思わない	した	された	経験は ない
⑥ 携帯電話、メール、手紙などを勝手に見る	思う	思わない	した	された	経験は ない
⑦ 外出を制限する	思う	思わない	した	された	経験は ない
⑧ 何を言っても無視し続ける	思う	思わない	した	された	経験は ない
⑨ 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「甲斐性がない」 「稼ぎが悪い」などと言う	思う	思わない	した	された	経験は ない
⑩ 家に生活費を入れない	思う	思わない	した	された	経験は ない
⑪ 勝手に借金をする・無理に借金をさせる	思う	思わない	した	された	経験は ない
⑫ 相手が嫌がっているのにポルノビデオやポルノ雑誌 を見せる	思う	思わない	した	された	経験は ない
⑬ 性的な行為を強要する	思う	思わない	した	された	経験は ない
⑭ 避妊に協力しない・妊娠中絶を強要する	思う	思わない	した	された	経験は ない

問 1 1 配偶者やパートナー、交際相手からの暴力について、相談できる場所があることを知っていますか。

1 知っている

2 知らない

問11-1 問 1 1 で「1 知っている」と回答した方のみにうかがいます。それは、次のどの窓口や機関ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 平塚市役所で開設している「女性のための相談窓口」
- 2 神奈川県相談窓口（配偶者暴力相談支援センター 他）
- 3 法務局（女性の人権ホットライン、みんなの人権 1 1 0 番 他）
- 4 人権擁護委員（人権相談）
- 5 市役所
- 6 警察
- 7 病院
- 8 その他（ ）



問 1 2 平塚市では、市役所や公民館などの市内公共施設のトイレに「DV相談窓口のご案内」カードを配架していますが、このカードを知っていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

1 見たことがある

2 聞いたことがある

3 もらったことがある

4 知らない

「DV相談窓口のご案内」カード



公共施設のトイレに設置しているもの



セクシュアルマイノリティ(LGBT等)についてお聞きします。

問13 セクシュアルマイノリティ(LGBT等)という言葉を知っていましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

- 1 言葉も意味も知っていた
- 2 言葉は知っていたが、意味は知らなかった
- 3 知らなかった

問14 今までに自分の身体の性、心の性または性的指向(同性愛等)に悩んだことはありますか。

- 1 はい
- 2 いいえ

問15 平塚市では、今年4月1日から「平塚市パートナーシップ宣誓制度※」を開始しましたが、知っていましたか。

※ セクシュアルマイノリティや事実婚のカップルなど同性・異性を問わずパートナーシップのある2人が、互いに人生のパートナーであることを宣誓し、市長がその事実を公的に証するものです。

- 1 知っている
- 2 知らなかった



パートナーシップ宣誓受領証



番
年 月 日
号

パートナーシップ宣誓書受領証

氏名

様

氏名

様

生年月日
____年__月__日

生年月日
____年__月__日

宣誓日
____年__月__日

平塚市パートナーシップ宣誓の取扱いに関する要綱の規定に基づき、お二人からパートナーシップ宣誓書を受領しました。

平塚市は、一人ひとりの人権が尊重され、共に生き、支えあうまちづくりに取り組んでいます。お二人が、互いを人生のパートナーとして相互に協力し合いながら、自分らしく生き生きと活躍されることを応援していきます。

平塚市長 落合 克宏 印

パートナーシップ宣誓受領カード



パートナーシップ宣誓書受領証カード

氏名

様

第 ____ 号

宣誓日
____年__月__日

平塚市パートナーシップ宣誓の取扱いに関する要綱の規定に基づき、お二人からパートナーシップ宣誓書を受領しました。

平塚市長 落合 克宏 印

※ 受領証等は、平塚市パートナーシップ宣誓制度に基づき、パートナーシップを宣誓することで交付され、県営住宅や市営住宅への入居申請の際に使用することができます。市では、受領証等を提示することで利用できるサービスを増やしていくとともに、民間事業者や市民の皆様に対しても、周知啓発に努めています。

新型コロナウイルス感染症の拡大における影響についてお聞きします。

問16 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、どのような影響がありましたか。項目ごとにあてはまるものを1つずつ選んでください。該当しない場合は、「4 該当なし」を選んでください。



	問16			
	1	2	3	4
① 身体的な健康	良くなった	悪くなった	変化なし	
② 精神的に不安定になってイライラすること	増えた	減った	変化なし	
③ 生活に対する不安	増えた	減った	変化なし	
④ 家計収入	増えた	減った	変化なし	
⑤ 就業時間	増えた	減った	変化なし	該当なし
⑥ 在宅勤務やテレワーク	増えた	減った	変化なし	該当なし
⑦ 残業	増えた	減った	変化なし	該当なし
⑧ 自分の収入	増えた	減った	変化なし	該当なし
⑨ 職場環境	良くなった	悪くなった	変化なし	該当なし
⑩ 学校の授業や部活動、行事など	良くなった	悪くなった	変化なし	該当なし
⑪ 家事や育児、介護の負担	増えた	減った	変化なし	該当なし
⑫ 家庭内のけんかや言い争い	増えた	減った	変化なし	該当なし
⑬ 親族との付き合い	増えた	減った	変化なし	該当なし
⑭ 友人・知人との交友関係	良くなった	悪くなった	変化なし	該当なし

最後に、男女共同参画について、ご意見がありましたら記入してください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れて、**10月7日(金)まで**に返送してください。(切手不要)



平塚市男女共同参画に関する
市民意識調査報告書

令和5年（2023年）2月

編集・発行：平塚市市民部人権・男女共同参画課

〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9番1号

電話：0463-21-9861（ダイヤルイン）

FAX：0463-21-9756
